

介護福祉学科 教育課程

領域	教 育 内 容	科 目	授業形態	第 1 年 次		第 2 年 次		時間数	実務 経験
				前期	後期	前期	後期		
	人間関係とコミュニケーション	レクリエーションワーク	講義・演習		30			30	◎
	社会の理解	社会の理解 3	講義		30			30	◎
	小計			0	60	0	0	60	
介 護	介護の基礎	基礎介護総論 1	講義	30				30	◎
		基礎介護総論 2	講義・演習		30			30	◎
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術 1	講義	10	20			30	◎
		生活支援技術 1	講義・演習	30				30	◎
	生活支援技術	生活支援技術 2	講義・演習	20				20	◎
		生活支援技術 3	講義・演習	30				30	◎
		生活支援技術 4	講義・演習		20			20	◎
	介護過程	介護過程 2	講義・演習		30			30	◎
		介護過程 3	講義・演習			30		30	◎
		介護過程 4	講義・演習			30		30	◎
		介護過程 5	講義・演習				30	30	◎
	介護総合演習	介護総合演習 1	講義・演習	30				30	◎
		介護総合演習 2	講義・演習		30			30	◎
		介護総合演習 3	講義・演習			30		30	◎
		介護総合演習 4	講義・演習				30	30	◎
	小計			150	130	90	60	430	
	小計			150	130	90	60	430	
こ こ ろ と か ら だ の し く み	発達と老化の理解	発達と老化1	講義		30			30	◎
		発達と老化2	講義			30		30	◎
	障害の理解	障害の理解 1	講義	30				30	◎
		こころとからだ 1	講義	45				45	◎
	小計			75	30	30	0	135	
医 療 的 ケ ア	医療的ケア	医療的ケア 1	講義・演習		30			30	◎
		医療的ケア 2	講義・演習			38		38	◎
	小計			0	30	38	0	68	
選択科目		福祉レクリエーション	講義・演習	18				18	◎
		小計		18	0	0	0	18	
総 計				243	250	158	60	711	

(注) 各科目の履修認定は履修時間とする。但し介護実習に付き、各々定められた施設での実習時間を以て履修とする。

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
レクリエーションワーク (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

人間関係の形成とコミュニケーションの基礎な知識とレクリエーション支援を通して習得する実践能力を構築するとともに<u>チームマネジメント</u>を理解する (レクリエーションインストラクター資格取得科目 課程認定校資格取得に付きその他必要要件あり)
--

◇到達目標

レクリエーション活動を通して実践能力を身につける レクリエーションインストラクターの資格取得を目指す

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	レクリエーション支援の方法 (回想法)	講義・演習	
第2回	レクリエーション支援の実施 (ソング伝え方)	講義・演習	
第3回	レクリエーション活動の習得 (レクダンスと手話を用いたレク)	講義・演習	
第4回	レクリエーション支援の実施 (児童とレク演習)	講義・演習	
第5回	レクリエーション支援の実施 (児童とレク)	講義・演習	
第6回	レクリエーション支援理論	講義・演習	
第7回	レクリエーション支援の実施 (ソングー手遊び)	講義・演習	
第8回	レクリエーション支援理論 (レクリエーション活動)	講義・演習	
第9回	レクリエーション支援の方法	演習	
第10回	レクリエーション支援のプログラム (プログラムについて)	講義	
第11回	レクリエーション支援のプログラム (計画演習)	演習	
第12回	レクリエーション支援のプログラム	演習	
第13回	レクリエーション支援の実施 (実技検討)	演習	
第14回	レクリエーション支援の実施 (ロールプレイ演習)	演習	
第15回	レクリエーション支援の方法 (計画作成)	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (50 %) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (50 %) ☐ そ の 他 (%)
------	---

教科書	なし
参考図書	レクリエーション活動援助法 (中央法規出版) レクリエーションの基礎 (日本レクリエーション協会) 適宜配布
留意事項	資格取得科目に付きレクリエーション現場実習を課す

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
社会の理解3 (実務経験のある教員等による授業科目)	原田 佳枝・加藤 貴久	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

[原田] 介護保険制度創設背景と、目的、現在の動向を理解する。サービスの流れ、専門職の役割について理解する。地域包括支援センターの役割を理解する。 [加藤] 障がい福祉を取り巻く現状と動向、現状へとつながる歴史 障害者総合支援法を中心として障害福祉制度 障がい、障がいのある方の生活、支援の実情

◇到達目標

[原田] 介護保険制度を知り、利用者負担の理解ができる。施設ケア・在宅ケアについてサービス内容が理解できる。介護保険の申請から利用までの一連の流れが理解できる [加藤] 介護福祉士国家試験の合格レベルの知識の獲得 不明な知識を自ら調べることで、難解文章を読み解く技術の獲得 障がいのある人の視点に立って物事を考えられる姿勢と人権意識の獲得

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	介護保険の目的	講義	原田
第2回	介護保険法の改正の流れ	講義	原田
第3回	介護保険のしくみ 保険者と被保険者について	講義	原田
第4回	介護保険の申請方法 利用者負担について 現物給付と償還払い	講義	原田
第5回	介護保険給付の対象者について	講義	原田
第6回	介護サービス内容 指定サービス事業者について	講義	原田
第7回	国、都道府県、市町村の役割	講義	原田
第8回	介護支援専門員とは	講義	原田
第9回	公的介護保険サービスと自費サービスについて 介護保険料の計算方法	講義	原田
第10回	講師の経験を通じた障がい福祉の経験、障がいの定義	講義	加藤
第11回	障がい福祉制度の外観（障害者総合支援法を除く）	講義	加藤
第12回	障害者総合支援法（目的とサービスの概要を中心に）	講義	加藤
第13回	障害者総合支援法（税源と負担、サービスの詳細を中心に）	講義	加藤
第14回	障害者総合支援法（相談支援と障がいのある児童を中心に）	講義	加藤
第15回	試験	試験	原田

評価方法	■試験（100%） □実技試験（%） □演習評価（%） □小テスト（%） □レポート（%） □その他（%）
------	--

教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編集「最新介護福祉士養成講座2 社会の理解」中央法規出版
参考図書	伊藤亜紗「みえるとかみえないとか」アリス館
留意事項	テキストは必ず持参すること、予習復習すること 試験は、2対1の配分で評価する

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
基礎介護総論 1 (実務経験のある教員等による授業科目)	原田 佳枝	1	30	前期	必修 選択

◇講義概要

介護の意義と役割、及び専門性について理解し、介護を必要とする人の個性を大切にしながら安全、安心の出来る介護や信頼のおける介護のあり方について学ぶ。また生活を支える介護、自立支援や個別ケアのあり方を学ぶ。

◇到達目標

介護の意義と役割、専門性について理解すると共に、その人らしい生活のあり方を知る
介護福祉士の歴史的背景を知り、介護福祉士としてのあり方を考え、目指す介護福祉士像が見えてくる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	介護福祉士について考える	講義	
第2回	介護の成り立ち歴史的背景	講義	
第3回	現在の介護 介護の時代背景から現在の介護について	講義	
第4回	現在の介護問題、将来の介護問題について	講義	
第5回	介護福祉士の活動の場と役割	講義	
第6回	介護について考える グループワーク発表	講義	
第7回	求められる介護福祉士像	講義	
第8回	社会福祉士及び介護福祉士法について	講義	
第9回	社会福祉士及び介護福祉士法に関する規定について 事例を通して考える	講義	
第10回	専門職能団体について 介護福祉士会を考える介護サービスの意味と特性	講義	
第11回	介護福祉士の倫理 介護福祉士の対応を考える	講義	
第12回	自立支援の考えについて 利用者の意思決定について	講義	
第13回	自立支援と介護福祉士の役割について	講義	
第14回	介護予防とは 介護予防における介護福祉士の役割	講義	
第15回	まとめ試験	筆記試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	新・介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本 I (中央法規出版)
参考図書	
留意事項	予習・復習すること

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
基礎介護総論 2 (実務経験のある教員等による授業科目)	原田 佳枝	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

介護を必要とする人の理解をする。利用者を支援するために、介護実践における連携を学ぶ。利用者が安全に生活を過ごすために、介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解し、利用者と介護従事者の安全を学ぶ。

◇到達目標

高齢者や障害のある人の暮らしを理解する。多職種連携や地域連携の目的と意義を学ぶ。
リスクマネジメントの手法や介護従事者の心身の健康管理を学ぶ。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	私たちの生活の理解	講義	
第2回	介護を必要とする人たちの暮らし	講義	
第3回	その人らしさ 支援を考える	講義	
第4回	生活を支えるフォーマルサービスとは	講義	
第5回	生活を支えるインフォーマルサービスとは	講義	
第6回	インフォーマルサービス・フォーマルサービスとの関係について	講義・演習	
第7回	地域連携の目的と役割、様々な機関	講義・演習	
第8回	介護における安全の確保 リスクマネジメントとは	講義・演習	
第9回	身体拘束とは	講義・演習	
第10回	高齢者虐待について	講義・演習	
第11回	高齢者虐待について 要介護者と消費者問題	講義・演習	
第12回	要介護者と消費者問題 多職種連携	講義・演習	
第13回	健康管理と意義と目的	講義・演習	
第14回	身体の健康管理	講義・演習	
第15回	試験 まとめ	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ 中央法規 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
コミュニケーション技術1 (実務経験のある教員等による授業科目)	加納 岬	1	10 20	前期 後期	必修 選択

◇講義概要

介護におけるコミュニケーションの基本を理解する。さまざまな介護場面における利用者とのコミュニケーションを学ぶ。

介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割の理解をする。情報の共有方法を知る。

◇到達目標

利用者の状況に応じたコミュニケーション方法の習得をする。

記録の方法・活用を知る。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	コミュニケーションの基本 かかわりを示す5つの基本動作	講義・演習	
第2回	態度に関する基本技術	講義	
第3回	ジョハリの窓 自己覚知とは	講義・演習	
第4回	質問の技法 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	講義・演習	
第5回	言語・非言語・準言語コミュニケーション 挨拶 敬語の使い方	講義・演習	
第6回	プロセスレコードとは 記録の意義と目的	講義・演習	
第7回	プロセスレコードの展開 記録の意義と目的	講義・演習	
第8回	報告・連絡・相談の技術	講義	
第9回	うつ病・統合失調症・知的障害のコミュニケーション	講義	
第10回	初対面の人とのコミュニケーション 発達障害のコミュニケーション	講義	
第11回	初対面の人とのコミュニケーション 介護のストレスとは	講義・演習	
第12回	介護のストレスとは 家族のもつ介護ストレスとは	講義	
第13回	家族のもつ介護ストレスとは アンガーマネジメントとは	講義	
第14回	アンガーマネジメントとは まとめ	講義・演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術 中央法規 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援技術 1 (実務経験のある教員等による授業科目)	加納 岬	1	30	前期	必修 選択

◇講義概要

自立に向けた睡眠・移動の介護を学ぶ。睡眠・移動の意義を理解し、快適な介護方法を知る。
ベッドメイキングが実践できるようにする。安全・安楽な移動介助を学ぶ。

◇到達目標

ベッドメイキングの習得をする。
個々に応じた睡眠環境・移動介助を習得する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	睡眠の意義と目的	講義	
第2回	睡眠の意義と目的 不眠時の対応方法	講義	
第3回	ベッドメイキングの意義 移動の意義と目的	講義	
第4回	移動介護の基本的理解	講義	
第5回	シーツ類のたたみ方 下シーツの敷き方 三角コーナーの作り方	演習	
第6回	三角コーナー・四角コーナーの作り方	演習	
第7回	枕・毛布の敷き方 防水シーツの敷き方	演習	
第8回	ベッドメイキング	演習	
第9回	対面法・背面法	演習	
第10回	対面法・背面法・水平移動	演習	
第11回	水平移動・上方移動	演習	
第12回	起き上がり～端座位	演習	
第13回	車いすの操作・介助方法 ベッド～車いす 一部介助・全介助	演習	
第14回	車いす～ベッド 一部介助・全介助	演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ(中央法規出版) 配布資料 介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ(中央法規出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援技術 2 (実務経験のある教員等による授業科目)	加納 岬	1	20	前期	必修 選択

◇講義概要

自立に向けた身じたく・移動の介護を学ぶ。身じたく・移動の意義を理解し、安全な介護方法を知る。
衣類交換・杖歩行・車いすの介助方法を習得する。尊厳を守り、快適で安全な介助を習得する。

◇到達目標

利用者の状況に応じた衣類交換・移動介助を習得する。
ボディメカニクスの原則を理解する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	車いすの種類・特徴 歩行のための福祉用具	演習	
第 2 回	車いす～ベッド ベッド～車いす スライディングボードの介助	講義・演習	
第 3 回	車いすの段差越え 歩行のための福祉用具	講義・演習	
第 4 回	杖歩行の介助 腰痛予防対策	講義・演習	
第 5 回	杖歩行の介助 身じたくの意義と目的	演習	
第 6 回	衣服の着脱 座位での一部介助・全介助	演習	
第 7 回	衣服の着脱 ベッド上での一部介助・全介助	演習	
第 8 回	総合実技まとめ	演習	
第 9 回	総合実技まとめ	演習	
第 10 回	試験	試験	
第 11 回			
第 12 回			
第 13 回			
第 14 回			
第 15 回			

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ(中央法規出版) 配布資料 介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ(中央法規出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援技術3 (実務経験のある教員等による授業科目)	原田 佳枝	1	30	前期	必修 選択

◇講義概要

食事とは・・・を考え、自立に向けた食事の介護について理解する
 的確な介護を提供するための技術を身につける
 口腔ケアについて知識を深める
 ①医療機関受診のための準備、診療時・検査時の援助方法について理解する
 ②薬剤使用時の基礎知識について理解し、正しい服薬および使用方法について学ぶ

◇到達目標

利用者にとっての食事のあり方について考えることが出来る
 医療行為でないと原則されているものを理解し、薬剤使用時に必要な援助方法を学ぶ
 基本的な口腔ケアの知識、技術を得る
 利用者の思いを理解し、受診時に情報を適切に伝えることが正しい診断・治療に繋がることを知る

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	食事とは 「楽しい食事」について考える	講義	
第2回	食事の意義と目的	講義	
第3回	食事の介護 誤嚥防止について	講義	
第4回	障がいに応じた食事介護（認知症・視覚障害者）	講義	
第5回	正しい姿勢での食事を考える 椅子の高さや介護者の位置	講義・演習	
第6回	留意事項食事介護の事例問題 グループ検討	演習	
第7回	食事介護のアセスメント	講義・演習	
第8回	口腔ケアとは 口腔機能を考える	講義	
第9回	口腔ケア 口腔ケアの介護を考える	講義	
第10回	口腔ケア スポンジブラシを作り介護方法を考える	演習	
第11回	実際の食事介護 誤嚥、脱水を考える介護	講義	
第12回	食事方法を考える	演習	
第13回	医療機関受診時の介護、服薬時・薬剤使用時の介護	講義	
第14回	オブラート使用による内服、外用剤の使用・注意点	演習	
第15回	まとめ試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	新・介護福祉士養成講座第7巻 生活支援技術Ⅱ(中央法規出版)
参考図書	介護職のための医療行為&薬の基本完全ガイド(ひかりのくに)
留意事項	

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
生活支援技術4 (実務経験のある教員等による授業科目)	加納 岬	1	20	後期	必修 選択

◇講義概要

自立した生活支援に向けて障害に応じた支援方法や、利用者の状態・状況に応じた介助方法を知る。
さまざまな障害に応じた介護方法の習得や障害に対するアセスメント能力を学ぶ。
内部障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かわり支援を学び、介護の注意点を理解する

◇到達目標

利用者の障害に対して、基本から応用に展開できる介護技法を理解する。
内部障害の特性を理解した、その方らしい日常生活が送れるような介護方法を身に付ける

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	視覚障害に応じた介護	講義	
第2回	視覚障害に応じた介護 聴覚障害に応じた介護	講義・演習	
第3回	聴覚障害に応じた介護	講義	
第4回	言語障害に応じた介護	講義	
第5回	内部障害に応じた介護 心臓・呼吸機能障害機能障害に応じた介護	講義	
第6回	呼吸・腎臓・膀胱・直腸機能障害に応じた介護	講義	
第7回	膀胱・直腸・小腸機能障害に応じた介護	講義	
第8回	免疫機能障害・肝臓機能障害に応じた介護	講義	
第9回	肝臓機能障害に応じた介護 まとめ	講義	
第10回	試験	試験	
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ(中央法規出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護過程2 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

事例を用いて、ニーズを把握するためのアセスメントを行い自立支援に基づく介護計画を立案する。

◇到達目標

利用者を主体とした生活援助を行うことができる能力を身につける。利用者を理解するために情報収集を行い、分析し生活課題を把握できる。生活課題を解決・充足するための個別援助計画を立案できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	事例1 フェイスシートを用いて 利用者の概要を理解する	演習	
第2回	アセスメントシートを用いて 情報の分析をする	演習	
第3回	アセスメントシートを用いて 情報の分析をする	演習	
第4回	アセスメントシートを用いて 生活課題を把握する	演習	
第5回	アセスメントシートを用いて 生活課題を把握する	演習	
第6回	発表 グループ討論	演習	
第7回	個別援助計画を立案する	演習	
第8回	個別援助計画を立案する	演習	
第9回	個別援助計画を立案する	演習	
第10回	事例2 フェイスシートを用いて 利用者の概要を理解する	演習	
第11回	アセスメントシートを用いて 情報の分析をする	演習	
第12回	アセスメントシートを用いて 情報の分析をする	演習	
第13回	アセスメントシートを用いて 生活課題を把握する	演習	
第14回	介護目標と個別援助計画を立案する	演習	
第15回	介護目標と個別援助計画を立案する	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (100 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	介護過程 (中央法規出版)
参考図書	
留意事項	

令和 7 年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護過程 3 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子	2	30	前期	必修 選択

◇講義概要

・事例を用いてアセスメントから評価までの思考過程を学ぶ。 ・事例を用い、食事 排泄 清潔 移動 コミュニケーション 生きがい 役割などを多面的・総合的に分析し、個別援助計画を立案する。

◇到達目標

専門知識・技術を根拠とした客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開能力を身につける。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	事例 3 フェイスシート	演習	
第 2 回	事例 3 アセスメントシート 情報収集と分析	講義・演習	
第 3 回	事例 3 アセスメントシート 情報収集と分析	演習	
第 4 回	事例 3 個別援助計画	講義・演習	
第 5 回	事例 3 個別援助計画	演習	
第 6 回	事例 4 フェイスシート	演習	
第 7 回	事例 4 アセスメントシート 情報収集と分析	講義・演習	
第 8 回	事例 4 アセスメントシート 情報収集と分析	演習	
第 9 回	事例 4 個別援助計画	講義・演習	
第 10 回	事例 4 個別援助計画	演習	
第 11 回	帰校日	演習	
第 12 回	実習Ⅱ－1 介護過程の見直し グループワーク	演習	
第 13 回	実習Ⅱ－1 介護過程の見直し グループワーク	演習	
第 14 回	情報の収集と分析	演習	
第 15 回	個別援助計画	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (100 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	介護過程 (中央法規)
参考図書	
留意事項	

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護過程4 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子	2	30	前期	必修 選択

◇講義概要

アセスメント、ニーズの把握、介護目標、個別援助計画・実施・評価までの介護過程を科学的根拠に基づいて展開する。実習で実践した介護過程の結果を、論拠と主張をもとにまとめる。

◇到達目標

専門知識・技術を根拠とした客観的で科学的な思考過程による介護過程が展開できる。
実習で実践した介護過程を科学的な思考過程に基づいてまとめる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	事例5 情報の収集・分析・生活課題の把握	演習	
第2回	情報の収集・分析・生活課題の把握	演習	
第3回	個別援助計画・実施	演習	
第4回	考察と評価	演習	
第5回	帰校日 個別援助計画の立案	演習	
第6回	事例研究 ケーススタディの目的と進め方	講義	
第7回	テーマの設定	演習	
第8回	序論	演習	
第9回	事例の概要	演習	
第10回	本論 情報の分析	演習	
第11回	本論 情報の分析	演習	
第12回	本論 生活課題・ニーズ	演習	
第13回	本論 介護目標と介護計画	演習	
第14回	本論 介護計画・実践	演習	
第15回	本論 介護計画・実践	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (100 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	介護過程（中央法規） 介護事例研究の手引（日総研）
参考図書	
留意事項	

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護過程5 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子	2	30	後期	必修 選択

◇講義概要

実習で実践した個別援助計画を振り返り、事例報告としてまとめる。
利用者の真のニーズを十分に汲み取りながら援助したかを検討し、自分が展開し実践した介護を客観的に振り返る

◇到達目標

パワーポイントを用いて、実践した介護過程を事例報告会で発表する。
自分の介護観を確かなものにする。介護福祉士として福祉の現場で貢献する覚悟を身につける。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	事例研究 本論 介護計画・評価	演習	
第2回	本論 介護計画・評価	演習	
第3回	考察	演習	
第4回	考察	演習	
第5回	まとめ	演習	
第6回	まとめ	演習	
第7回	事例研究 パワーポイント作成 序論 研究の目的 テーマ	演習	
第8回	事例の概要 情報の分析 生活課題	演習	
第9回	介護目標 介護計画	演習	
第10回	介護の実施と評価	演習	
第11回	考察・まとめ	演習	
第12回	事例研究 発表	演習	
第13回	事例研究 発表	演習	
第14回	事例研究 発表	演習	
第15回	事例研究 発表	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (100 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	介護事例研究の手引き (日総研)
参考図書	
留意事項	

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護総合演習 1 (実務経験のある教員等による授業科目)	加納 岬	1	30	前期	必修 選択

◇講義概要

実習に対する心構えや技術の確認・実習後のまとめを通して介護福祉士としての知識・技術を深める。実習前に各施設種別の特徴や動機付け・技術確認を行い、介護実習の目標・課題を達成できるようにする。実習中の問題点の整理・課題解決・実習後のまとめを通して次回への展開を行えるようにする。

◇到達目標

介護実習の意義・目的・課題を理解する。
居宅・通所・入所・介護分野での理解と介護福祉士としての役割の明確化ができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	介護実習の意義と目的 介護実習 I-1 について	講義	
第2回	介護実習 I-1 デイサービス・デイケアについて	講義	
第3回	個人票の書き方と個人票の作成	講義・演習	
第4回	I-1 個人票の作成	演習	
第5回	おれない心をはぐくむ 他職種連携からのアプローチ	講義・演習	
第6回	おれない心をはぐくむ 他職種連携からのアプローチ	講義・演習	
第7回	記録の書き方	講義・演習	
第8回	実習に向けてのマナー講座	講義・演習	
第9回	実習ファイルの作成 実習に対する注意事項	講義・演習	
第10回	介護実習 I-1 まとめ	演習	
第11回	実習 I-1 報告会	演習	
第12回	介護実習 I-2 障害者支援施設について	講義・演習	
第13回	介護実習 I-2 障害者支援施設について 特別講義	講義・演習	
第14回	I-2 個人票の作成	演習	
第15回	生活支援技術の確認	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%)	☐ 実技試験 (%)	☒ 演習評価 (50 %)
	☐ 小テスト (%)	☒ レポート (50%)	☐ その他 (%)

教科書	新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習(中央法規出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護総合演習2 (実務経験のある教員等による授業科目)	加納 岬	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

実習に対する心構えや技術の確認・実習後のまとめを通して介護福祉士としての知識・技術を深める。実習前に各施設種別の特徴や動機付け・技術確認を行い、介護実習の目標・課題を達成できるようにする。実習中の問題点の整理・課題解決・実習後のまとめを通して次回への展開を行えるようにする。

◇到達目標

介護実習の意義・目的・課題を理解する。
居宅・通所・入所・介護分野での理解と介護福祉士としての役割の明確化ができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	実習ファイルの作成 実習に対する注意事項	講義・演習	
第2回	実習 I-2 まとめ	演習	
第3回	実習 I-2 報告会	演習	
第4回	記録の振り返り	講義・演習	
第5回	小規模多機能 認知症対応型共同生活介護とは	講義・演習	
第6回	小規模多機能 認知症対応型共同生活介護とは 特別講義	講義・演習	
第7回	個人票の作成	演習	
第8回	個人票の作成	演習	
第9回	生活支援技術の確認	演習	
第10回	実習ファイルの作成 実習に対する注意事項	講義・演習	
第11回	実習 1-3 まとめ	演習	
第12回	実習 1-4 まとめ	演習	
第13回	実習 1-3・1-4 報告会	演習	
第14回	1年間の振り返り	講義・演習	
第15回	キャリア形成リスクリング支援センター ジョブカードセミナー	講義・演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%)	☐ 実技試験 (%)	☒ 演習評価 (50 %)
	☐ 小テスト (%)	☒ レポート (50 %)	☐ その他 (%)

教科書	新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習(中央法規出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和 7 年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護総合演習 3 (実務経験のある教員等による授業科目)	小林 玲子	2	30	前期	必修 選択

◇講義概要

- ・介護実習の意義と目的を理解し、実習に臨む基本的姿勢を習得する。
- ・各実習施設の概要や特徴を理解し、学ぶべきポイントを整理することで、学生自身が目標を持って実習に取り組めるようにする。
- ・実習後の振り返りを通して、実習での学びの活かし方を体得し、次回への展開を行えるようにする。

◇到達目標

- ・介護実習の意義・目的を理解して実習に臨むことができる。
- ・実習施設のサービス内容や利用者像を述べるができる。
- ・実習を通して、介護福祉士の役割について理解することができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	今年度のスケジュール 実習Ⅱ－1 の意義・目的について	講義	
第 2 回	介護老人福祉施設・介護老人保健施設の基礎的理解	講義	
第 3 回	介護老人福祉施設とは【施設理解】 (西ノ京苑 永山先生)	講義	
第 4 回	介護老人保健施設とは【施設理解】 (ふれあい 武石先生)	講義	
第 5 回	実習Ⅱ－1 個人票の作成	講義・演習	
第 6 回	自己計画表の作成①	講義・演習	
第 7 回	介護技術の総復習 (1) ～移乗・移動・ベッドメイキング～	演習	加納 T
第 8 回	バリアフリー展 インテックス大阪 見学	講義・演習	
第 9 回	バリアフリー展 インテックス大阪 見学	講義・演習	
第 10 回	自己計画表の作成②	講義・演習	
第 11 回	介護技術の総復習 (2) ～排泄・着脱～	演習	原田 T
第 12 回	実習Ⅱ－1 の準備 (ファイル作成・実習に対する注意事項)	演習	
第 13 回	帰校日指導	演習	
第 14 回	実習のまとめ (記録まとめ・評価・礼状)	演習	
第 15 回	実習Ⅱ－1 報告会	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (100 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	新・介護福祉士養成講座 第 10 巻 介護総合演習・介護実習(中央法規出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
介護総合演習 4 (実務経験のある教員等による授業科目)	小林 玲子	2	30	後期	必修 選択

◇講義概要

実習に対する心構えや技術の確認・実習後のまとめを通して介護福祉士としての知識・技術を深める。 実習前に各施設種別の特徴や動機付け・技術確認を行い、介護実習の目標・課題を達成できるようにする。 実習中の問題点の整理・課題解決・実習後のまとめを通して次回への展開を行えるようにする。 介護福祉士としての役割について考えることができる
--

◇到達目標

介護実習の意義・目的・課題を理解する。 居宅・通所・入所・介護分野での理解と介護福祉士としての役割の明確化ができる。 実習を通して、介護福祉士の役割について理解することができる。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	実習Ⅱ―2 個人票の作成	演習	
第2回	実習Ⅰ―5の意義・目的・訪問介護とは 【 原田先生 】	講義	
第3回	実習Ⅰ―5 個人票の作成 【 原田先生 】	演習	
第4回	自己計画表の作成 ①	演習	
第5回	自己計画表の作成 ②	演習	
第6回	多職種連携 ～チームアプローチについて①～ 5 学科合同	講義・演習	
第7回	多職種連携 ～チームアプローチについて②～ 5 学科合同	講義・演習	
第8回	実習Ⅱ―2の事前準備（ファイル作成・実習に対する注意事項）	演習	
第9回	実習Ⅰ―5 報告会 【 原田先生 】	講義・演習	
第10回	帰校日指導	演習	
第11回	実習のまとめ （記録まとめ・評価・礼状）	演習	
第12回	実習Ⅱ―2 報告会	演習	
第13回	ドッグセラピー	講義・演習	
第14回	アンガーマネジメント	講義・演習	
第15回	介護ロボット	講義・演習	

評価方法	☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 100 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	新・介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習(中央法規出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
発達と老化1 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子 ・ 小林 玲子	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

小児期から老年期における成長と発達についての基本的理解・各発達段階についての課題を学習する。
 高齢者の健康、健康長寿について学ぶ
 高齢者の疾患・症状の特徴を学ぶ

◇到達目標

成長と発達について一連の流れを理解し、各発達段階における課題を述べることができる。
 老化に伴う機能低下と日常生活への影響とその予防方法が理解できる。
 高齢者の健康維持のための支援に必要な知識を身につける。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	人間の成長と発達の基礎的理解 【1】～成長・発達の法則を中心に～	講義	小林玲子
第2回	人間の成長と発達の基礎的理解 【2】～様々な発達理論を中心に～	講義	小林玲子
第3回	発達理論（1） ～ピアジェ～	講義	小林玲子
第4回	発達理論（2） ～エリクソン・バルテス～	講義	小林玲子
第5回	各発達段階の概要	講義・GW	小林玲子
第6回	発達段階別にみた身体的成長と発達	講義	小林玲子
第7回	発達段階別にみた社会的成長と発達	講義・GW	小林玲子
第8回	健康長寿・高齢者の健康	講義	澤浦知子
第9回	高齢者の疾患・症状の特徴 廃用症候群と生活支援上の留意点	講義	澤浦知子
第10回	高齢者に多い疾患 骨格・関節疾患と生活支援上の留意点	講義	澤浦知子
第11回	高齢者に多い疾患 脳・神経疾患と生活支援上の留意点	講義	澤浦知子
第12回	高齢者に多い疾患 高血圧 動脈硬化と生活支援上の留意点	講義	澤浦知子
第13回	高齢者に多い疾患 脳血管疾患・虚血性心疾患と生活支援上の留意点	講義	澤浦知子
第14回	高齢者に多い疾患 糖尿病と生活支援上の留意点	講義	澤浦知子
第15回	試験		澤浦・小林

評価方法	☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	発達と老化の理解（中央法規）生活支援技術Ⅲ（中央法規）
参考図書	
留意事項	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後は授業のポイント等をノートにまとめるなど復習しておくこと。

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
発達と老化2 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子 ・ 小林 玲子	2	30	前期	必修 選択

◇講義概要

- ・ 老年期の発達の定義や発達課題について理解を深め、老年期にどのような問題や課題があるのか等について具体的に学習する。(家族関係、生活基盤、喪失体験、セクシュアリティなど)
- ・ 高齢者の疾患・症状の特徴を学ぶ
- ・ 老化に伴う適応と社会的活動を学ぶ

◇到達目標

- ・ 「老いる」ことを理解し、老年期の問題・課題を社会的側面から捉え、説明することができる。
- ・ 老化に伴う機能低下と日常生活への影響とその予防方法が理解できる。
- ・ 高齢者の健康維持のための支援に必要な知識を身につける。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	老年期の定義	講義	小林
第2回	老化とは	講義	小林
第3回	老年期の発達課題① ～代表的な発達理論 ハヴィガースト・エリクソン・ペック～	講義	小林
第4回	老年期の発達課題② ～代表的な発達理論 レヴィンソン・バルテス～	講義	小林
第5回	老年期の発達課題③ ～ 喪失体験 ～	講義	小林
第6回	老年期の発達課題④ ～ セクシュアリティ ～	講義	小林
第7回	老年期をめぐる今日的課題	講義	小林
第8回	老化に伴う心理的な変化と生活への影響	講義	澤浦
第9回	老化に伴う社会的な変化と生活への影響	講義	澤浦
第10回	高齢者に多い疾患 がんと生活支援上の留意点	講義	澤浦
第11回	高齢者に多い疾患 呼吸器疾患と生活支援上の留意点	講義	澤浦
第12回	高齢者に多い疾患 皮膚疾患と生活支援上の留意点	講義	澤浦
第13回	高齢者に多い疾患 感覚器疾患と生活支援上の留意点	講義	澤浦
第14回	高齢者に多い疾患 感染症と生活支援上の留意点	講義	澤浦
第15回	試験		

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	発達と老化の理解 (中央法規)
参考図書	
留意事項	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後は授業のポイント等をノートにまとめるなど復習しておくこと。

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
障害の理解 1 (実務経験のある教員等による授業科目)	小林 玲子	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

- (1) 障害の捉え方や障害福祉諸制度における障害者の法的定義などの基礎的知識を理解する。
 (2) 障害のある人とその介護者家族への生活支援のあり方について下記の2つを視点に学習する。
 ①障害特性の理解 ②心理面、生活面、社会面からの理解

◇到達目標

- ・ 障害に関する基礎的知識を説明できる。
- ・ 障害のある人の生活支援について心理面・生活面・社会面から多面的に理解できる。
- ・ 介護者家族への支援を説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	障害の基礎的理解 (授業の導入)	講義・演習	
第2回	障害をどう捉えるか(1)～障害の定義～	講義	
第3回	障害をどう捉えるか(2)～ICFの考え方を中心に～	講義	
第4回	障害者福祉の基本的理念 ～ノーマライゼーション・リハビリテーション～	講義	
第5回	障害者福祉の基本的理念 ～インクルージョン・エンパワメント・ストレングス～	講義	
第6回	視覚障害の基礎的理解とその特性に応じた支援	講義	
第7回	聴覚・言語障害の基礎的理解とその特性に応じた支援	講義・演習	
第8回	肢体不自由の基礎的理解とその特性に応じた支援	講義	
第9回	知的障害の基礎的理解とその特性に応じた支援	講義・演習	
第10回	精神障害の基礎的理解とその特性に応じた支援	講義	
第11回	介護者家族支援の現状と支援の基本的視点	講義	
第12回	他職種連携と地域におけるサポート体制について	講義	
第13回	障害者福祉に関連する制度 ～障害者総合支援法など～	講義	
第14回	障害者福祉に関連する制度 ～障害者差別解消法など～	講義	
第15回	試験		

評価方法	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	障害の理解；中央法規
参考図書	
留意事項	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後は授業のポイント等をノートにまとめるなど復習しておくこと。

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
こころとからだ1 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子	1	45	前期	必修 選択

◇講義概要

- ・人体の構造・機能の基本を学ぶ
- ・疾病の発生のメカニズムを学ぶ
- ・心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイントを学ぶ。

◇到達目標

- ・疾病の予防の視点を身につけ、健康を意識した支援に繋げる。
- ・介護実践に必要な観察力・判断力を培う。
- ・医療職と連携できる能力を養う。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	からだの各部位の名称	講義	
第2回	からだの成り立ちの理解	講義	
第3回	移動のしくみ 姿勢の種類	講義	
第4回	骨・関節のしくみ	講義	
第5回	筋肉のしくみ	講義	
第6回	歩行と移動	講義	
第7回	機能低下と廃用症候群	講義	
第8回	食事のしくみ 栄養と水分	講義	
第9回	口腔から食道までのしくみ	講義	
第10回	嚥下運動	講義	
第11回	機能低下 誤嚥	講義	
第12回	脱水	講義	
第13回	排泄のしくみ	講義	
第14回	消化管のしくみ 胃 小腸のしくみ	講義	
第15回	肝臓と膵臓の役割	講義	
第16回	排便のしくみ 大腸のしくみ	講義	
第17回	腎臓のしくみ	講義	
第18回	膀胱のしくみと排尿	講義	
第19回	尿失禁	講義	
第20回	脳と神経のしくみ	講義	
第21回	自律神経のしくみ	講義	

令和 7 年度 介護福祉学科 シラバス

第 22 回	総復習	講義	
第 23 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	こころとからだのしくみ (中央法規)
参考図書	
留意事項	予習復習をすること

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
医療的ケア 1 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子 ・ 小林 玲子	1	30	後期	必修 選択

◇講義概要

- ・介護福祉士が医療的ケアを担うことになった背景を理解する。それを踏まえて、介護福祉士としての役割及び適切なケアについて学習を深める。また、心肺蘇生法の基礎知識及び手技を習得する。
- ・健康状態を把握するための観察法とバイタルサインの測定法を習得する。

◇到達目標

- ・医療倫理を踏まえて、介護福祉士の役割を述べることができる。
- ・健康状態を適切に把握し、利用者の急変に気づく能力を身につける。
- ・心肺蘇生を正しく実施することができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	医行為の理解及び医療倫理	講義	小林
第2回	喀痰吸引等制度の理解（１）～医療的ケア実施の背景を中心に～	講義	小林
第3回	喀痰吸引等制度の理解（２）～制度の概要を中心に～	講義	小林
第4回	医療的ケアの安全な実施とリスクマネジメント	講義	小林
第5回	健康状態を知る項目	講義	澤浦
第6回	バイタルサインとは 体温	講義	澤浦
第7回	バイタルサインとは 脈拍と血圧	講義・演習	澤浦
第8回	バイタルサインとは 呼吸	講義・演習	澤浦
第9回	体温 脈拍 呼吸の測定法	演習	澤浦 小林
第10回	血圧の測定法	演習	澤浦 小林
第11回	急変状態とその対応、日頃の準備	演習	澤浦 小林
第12回	心肺蘇生法	講義	小林
第13回	心肺蘇生法	演習	澤浦 小林
第14回	心肺蘇生法（見極め含む）	演習	澤浦 小林
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	医療的ケア（中央法規）
参考図書	
留意事項	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後は授業のポイント等をノートにまとめるなど復習しておくこと。

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
医療的ケア2 (実務経験のある教員等による授業科目)	澤浦 知子 ・ 小林 玲子	2	38	前期	必修 選択

◇講義概要

- ・呼吸のしくみとはたらきを理解し、喀痰吸引実施と手順と留意点、喀痰吸引に関わる感染予防、安全確認、緊急対応について理解する。
- ・消化器の解剖生理を理解し、経管栄養実施にあたっての手順と留意点、必要なケアについて学習する。

◇到達目標

- ・呼吸のしくみとはたらき、呼吸器系の感染予防、喀痰吸引により生じる危険、安全確認の知識を身につける
- ・感染予防対策の知識技術を習得する。
- ・経管栄養が必要な状態像を説明できる。
- ・経管栄養に関する基礎的知識及び実施にあたっての留意点、必要なケアを述べるができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	呼吸のしくみとはたらき 呼吸器疾患	講義	澤浦
第2回	いつもと異なる呼吸状態 呼吸困難とそれがもたらす苦痛や障害	講義	澤浦
第3回	痰の貯留を示す状態 喀痰吸引が必要な状態	講義	澤浦
第4回	気管カニューレ内部の吸引と喀痰吸引に伴うケア	講義	澤浦
第5回	気管カニューレ内部の吸引と喀痰吸引に伴うケア	講義 演習	澤浦
第6回	気管カニューレ内部の吸引と喀痰吸引に伴うケア	講義 演習	澤浦
第7回	喀痰吸引時の感染予防対策 喀痰吸引により生じる危険と安全対策	演習	澤浦
第8回	その他の医療的ケア	演習	澤浦
第9回	感染症の予防と対策	演習	澤浦
第10回	消毒と滅菌	演習	澤浦
第11回	感染症の予防と対策	講義 演習	澤浦
第12回	消化器系のしくみと働き	講義	小林
第13回	経管栄養とは ～その適応としくみ～	講義	小林
第14回	経管栄養で用いる器具及び栄養剤等に関する基礎的理解	講義	小林
第15回	経管栄養をしている利用者（患者）の介護（Ⅱ）	講義	小林
第16回	経管栄養をしている利用者（患者）の介護（Ⅱ）	講義	小林
第17回	経管栄養の実施の手順と留意点（Ⅰ）	演習	小林
第18回	経管栄養の実施の手順と留意点（Ⅱ）	演習	小林
第19回	試験		

評価方法	☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 演習評価（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ その他（ ％）
------	---

教科書	医療的ケア（中央法規）
参考図書	
留意事項	授業前には当該授業部分の教科書を読んでおくこと。講義後は授業のポイント等をノートにまとめるなど復習しておくこと。

令和7年度 介護福祉学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	時間数	開講期	種別
福祉レクリエーション (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	1	18	前期	必修 選択

◇講義概要

日本レクリエーション協会で示された学習内容に基づき、レクリエーション活動の意義と支援者としての役割を学ぶ (レクリエーションインストラクター資格取得科目 課程認定校資格取得に付きその他必要要件あり)
--

◇到達目標

レクリエーション活動の意義を理解し、福祉社会でのレクリエーションのあり方を理解する

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション はじめまして (レク支援の方法)	講義・演習	
第2回	レクリエーションの理解とアイスブレーキング (レク支援の方法)	講義・演習	
第3回	レクリエーションとは (レクリエーション概論)	講義・演習	
第4回	集団心理の特性とレクリエーション (楽しさと心の元気づくり)	講義・演習	
第5回	福祉の中のレクリエーション (レクリエーション概論)	講義・演習	
第6回	生活のレク化とレクの生活化 (楽しさと心の元気づくり)	講義・演習	
第7回	手先を使ったレク (レク支援の方法) レクサポーター研修	講義・演習	
第8回	うたを使ったレク (レク支援の習得) レクサポーター研修	講義・演習	
第9回	レクリエーション現場演習	講義・演習	
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (100 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ そ の 他 (%)
------	--

教科書	なし
参考図書	楽しさを通した心と体の元気づくり レクリエーション支援の基礎 一部冊子あり
留意事項	資格取得科目に付きレクリエーション現場実習あり